



願いが込められた短冊



ジュンコとチープ昭和ノスタルジア

8月6日、津別町多目的活動センターで、町中心部に賑わいを取り戻すことを目的に七夕まつり（津別まちづくりセンター運営協議会、つべつ七夕まつり実行委員会主催）が開催され、約700名が会場を訪れました。

会場では、祭りの余興として「音夢の会」津別奈々サークルによる大正琴の演奏会や「ジュンコとチープ昭和ノスタルジア」のコンサート行われ、会場は大いに盛り上がりました。

また、お好み焼きやチョコバナナ、ホタテの炭火焼きなどを販売する露店のほかに、願いが書かれた短冊を下げる柳3本や子ども達が丹精込めて作ったあんどん85基が並べられ、ともされた光が町の大通に活気をもたらしました。

津別町の大通に賑わいを七夕まつりが開催される



網走川で川下りを体験しました



交流会の朝食バイキングにはオーガニック牛乳等が並びました

8月6日から10日までの5日間、船橋市・津別町青少年交流事業として千葉県船橋市の子ども達40人が津別町を訪れました。

来町後は、ホームステイ先の家族や津別の子ども達と一緒に摩周湖や硫黄山を見学したり、阿寒湖の遊覧船に乗船するなど様々な体験をし、北海道の自然を堪能しました。また、町内では、網走川の川くんだりや木工体験（鳥笛作り）に挑戦するなど、各種プログラムを通じて互いに交流を深めました。

船橋の子ども達は印象深い夏の思い出をお土産に地元へ帰っていきました。

北海道の夏を満喫 船橋市と青少年交流を行う

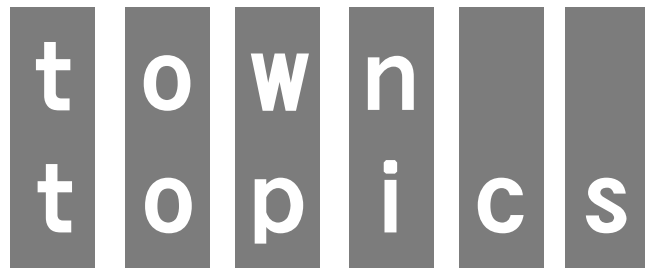


8月10日、ソフトテニスの全道大会を勝ち抜き、奈良県で行われる全国大会出場を決めた津別中学3年の河野斗夢君と佐藤雪路君が、報告のため町長室を訪れました。

小学3年生からペアを組んでいるという二人は「優勝を目標に頑張ります」と、日焼けした顔で全国大会への頼もしい決意を語ってくれました。

佐藤多一町長からは「中学生最後の大会なので頑張ってください」と激励の言葉が贈られました。

ソフトテニス中学大会 津別中のペアが全国大会へ



まちのわだい



完成後は流しそーめんやジンギスカンの夕食、あんどん作り、翌朝には牛乳パックを使ったふかふかパン作りに挑戦するなど、みんなで夏休みの楽しい時間を過ごしました。

みんなで家を建てました 今年もダンボールキャンプ実施

7月30日、31日の両日、屋内ゲートボール場で夏休みの恒例となったダンボールキャンプが行われました。

小学1年生から6年生までの参加者41名は、男女別に5つの班を結成。高校生のボランティアスタッフや保護者らとともに、商店などから提供されたダンボールを使って個性的な“我が家”を組み立てました。

8月10日、前北海道商工連合会会長、前津別町商工会会長の有岡惇二さんが町長室を訪れ、津別町に100万円を寄附しました。これは平成23年度春の叙勲受章に対する御礼の気持ちと、有岡さんは「町の商工振興に役立ててください」と話されました。寄附を受けた佐藤多一町長は「ご厚意に深く感謝申し上げます。趣旨に従って有意義に使用させていただきます」と、お礼の言葉を述べました。



作家・藤川幸之助さんを招いて認知症を考える講演会開催

7月19日、中央公民館で認知症を考える講演会が行われました。講師は自ら認知症の母親に寄り添いながら、命や認知症を題材にした作品を発表し続ける詩人・児童文学作家の藤川幸之助さん。60代でアルツハイマー型認知症を発症した母親の介護を長く続けてきた体験をもとに、その切実さや相手を思いやれなかったことへの後悔、病気を理解し受け入れるまでの心情などを、詩の朗読を交えながら静かな口調で語りかけました。中でも認知症の人と向き合うには物語を共有することが大切という藤川さんの言葉は多くの聴衆の共感を博たすものでした。

春の叙勲受章御礼として 有岡惇二さんが町へ寄附



地元の味を知ってほしい 津別産和牛の寄贈を受ける

7月20日、津別町肉牛振興会（迫田和男会長）が教育委員会を訪れ、阿部博道教育長へ津別和牛65kgの目録を贈りました。この寄贈は、昨年に続いて2回目。地元の食材をあまり食べたことがない子どもたちに味を知ってもらうとともに、安心安全なものを提供したいという想いから実施されました。迫田会長は「来年度も提供できるよう計画していきたい」と話しました。寄贈された牛肉は3回に分けて給食に出され、牛そぼろ丼やドライカレーといった献立に調理され、小・中学校の給食に出されました。

無数のホタルが水路を飛び交う ホタルまつりが開催される

